

巻 頭 言

北海道支部支部長 松澤 勝（寒地土木研究所）

北海道支部は、日本雪氷学会の初めての支部として、昭和 34 年に設立されました。その当時の資料によると、昭和 30 年代に高度成長が幕を開けると、雪は北海道の発展を妨げる要因と見なされ、雪氷問題の解決がなければ北海道の近代化は不可能だという認識が行政や産業界で急速に広がりました。このような背景から、北海道大学、北海道開発局、北海道、札幌管区气象台、林業試験場、農業試験場、日本国有鉄道北海道支社、北海道電力などの協力を得て、北海道支部が設立されました。

令和時代に入りましたが、2021/22 冬期には、札幌圏で何度も大雪に見舞われ、大規模な交通障害が発生し社会活動に大きな混乱をもたらしました。また、その冬の北海道内での雪害による死者は 29 名、重軽傷者は 318 名に上り、雪氷がもたらす問題は未だに解決されていません。

日本雪氷学会は公益法人として、学術活動だけでなく社会貢献活動も期待されています。昨年まではコロナ禍の影響で、対面活動に多くの制約がありましたが、皆様もご存じの通り、令和 5 年 5 月 8 日以降、新型コロナウイルス感染症は第 5 類に指定変更され、対面活動への制約が大幅に緩和されました。そして、北海道支部研究発表会も 3 年ぶりに対面開催され、合計 23 件の発表が行われました。本誌『北海道の雪氷』にもこれらの発表論文が掲載されています。研究発表会のプログラムを見ても分かるように、社会基盤、氷河水床、結晶、ハイドレート、降水、積雪、海氷など、幅広いテーマにわたる発表が行われています。

また、北海道支部の雪氷災害調査チームにより 2021/22 冬期の雪害に対して迅速な調査を行い、昨年度の支部研究発表会で報告したほか、2022/23 冬期には、北海道内で発生した 3 件の雪崩に対して、発生直後に現地調査を行いました。これらの活動に加えて、地域講演会やサイエンスパークへの参加などを通じて、雪氷に関する多様な課題の解決と社会貢献に努め、皆様からのご支援を得ながら、北海道支部の発展に取り組んでいきたいと考えています。

最後になりますが、『北海道の雪氷』の第 11 号（1992 年）から第 40 号（2021 年）までの 30 年間、素晴らしい版面で表紙を飾ってくださった斎藤新一郎会員が、今年、お亡くなりになりました。故福沢卓也会員が揮毫した題字とともに、『北海道の雪氷』の表紙は多くの読者の目を楽しませてきました。ここに、斎藤氏への哀悼の意を表し、長年にわたるご尽力に心より感謝申し上げます。